

iCARE Symposium in KYOTO

オリンピック開催が2020年東京と決まりました。

消費税増税にすべてをかけた社会保障制度。団塊世代が後期高齢者になり、都市部にあふれる2025年にむけて日本の社会福祉と医療は大きく変わろうとしています。2010年からはじまった「地域包括ケアシステム」による高齢者介護の市場化構想と2013年社会保障改革国民会議(社保会議)が、その方向を如実に示しています。

医師から看護師へ、看護師から介護福祉士へという医療の後退、国民皆保険制度に担保されたフリーアクセス医療への制限など、さまざまな医療・介護抑制がやってくると考えられます。

オリンピック招致決定のお祭り騒ぎで、その動きに拍車がかかることは必至です。

いまここで、歴史的な位置を確認する意味でも、これまでの医療的ケアや

重症心身障害児支援の歴史に立ち戻り、「医療的ケア」をコアに

今後の方向性を再確認したいと思います。



6・16シンプオの記録

『医療的ケア児者の地域生活支援の行方 ——法制化後の検証と課題』出版記念シンポジウム

市場原理に組み込まれる？

医療的ケア・弱者の 目線で問い直す

2013年11月3日(日)

会場・ホテル ルビノ京都堀川 2F「みやこの間」(会場地図は裏面)
〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町下ル TEL: 075-432-6161(代)

時間・13:30~17:00(開場13:00) 参加費・会員1000円・非会員1500円
※シンポ申込時に入会されると会員扱いの参加費となります。

第1部 記念講演 「死の自己決定権のゆくえ」 児玉真美さん

『死の自己決定権のゆくえ』(大月書店)を上梓された児玉真美さんに「無益な治療」論に象徴される海外の動静とメディア誘導の本質を語ってまいります。その先には生の多様性を保障する安全・安心な医療的ケアがあると思います。

⇒ 裏面に講師プロフィール

第2部 シンポジウム(徹底討論) 「医療的ケア」をコアに今後の方向性を探る！ ——医療・福祉の政策動向と医療的ケアの格差の平準化を

2025年にむけての医療と福祉(介護)「改革」の中身をしっかりと「深読み」したうえで、医療の後退、医療と福祉の連携の希薄化、都市と地方、そして全国の格差化に対して、最低の平準化をどう担保することができるか、医療、福祉、教育など各分野のシンポジストと参加者で討論します。

⇒ 裏面にテーマ・シンポジスト、「討論のキーワード」

交流会 講師・シンポジスト・参加者有志による交流会(会場のホテルにて)17:30~19:30=要予約

www.mcnet.or.jp

主催 ● NPO 法人医療的ケアネット TEL.075-693-6604 FAX.075-693-6605 e-mail.mcnet-info@mcnet.or.jp

後援 ● 京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、京都新聞社会福祉事業団(申請中)

申し込みはFAXかMailで!